

## 【学校規模等適正化に関する説明会（高陵小学校保護者対象）における質疑回答】

1. 日 時 平成 29 年 11 月 25 日（土） 午後 2 時から午後 3 時まで
2. 場 所 高陵小学校 音楽室  
(参加者：保護者 24 名、大藤校長、田中教頭) ※受付は田邊 PTA 会長
3. 内 容 枚方市学校規模等適正基本方針（改定版）要旨の説明及び質疑回答
4. 説明者 益田管理部参事、足立学校教育部次長、畑中教育環境整備室課長、  
松尾課長代理、明智係長、田中主任、廣瀬主任

(事務局)

<枚方市学校規模等適正化基本方針【改定版】（要旨）> のパワーポイントによる説明  
(P1)

枚方市教育委員会において改定されました「枚方市学校規模等適正化基本方針【改定版】」の要旨について、説明をさせていただきます。

(P2)

まず、学校規模等適正化基本方針が改定されるまでの経過についてですが、本市の児童生徒数は、少子化の進行によりピーク時から半減し、今後も、本市の人口推計調査によりますと、児童生徒数は更に大幅な減少が予測され、学校運営への影響が懸念されることから、平成 26 年 7 月、「市立小・中学校の将来における適正な配置等のあり方」について、枚方市学校規模等適正化審議会に諮問し、審議会において平成 27 年 12 月に審議会の答申（案）に対するインターネットアンケートを実施され、平成 28 年 3 月に審議会の答申が取りまとめられました。その後、平成 28 年 6 月から 12 月にかけて、その答申の内容についての説明会を実施し、その説明会で出たご意見等を参考に、教育委員会において、基本方針改定版の（案）を、取りまとめ、平成 29 年 3 月にパブリックコメントを実施しました。そして、本年平成 29 年 6 月に学校規模等適正化基本方針（改定版）を策定したものです。

(P3)

それでは、学校規模等適正化基本方針改定版要旨について説明させていただきます。

まず、1. 適正化の基本的な考え方の「(1) 学校規模」ですが、こちらの表は平成 29 年度の枚方市の小中学校の学校規模を示しております。上段が小学校で、枚方市の小学校 45 校のうち、11 学級以下の小規模校が 8 校、12 学級以上 24 学級以下の適正規模校が 35 校、25 学級以上の大規模校が 2 校という状況となっています。

(P4)

次に、「2. 適正化の実施」「①学校規模について」ですが、まず、基本的な方策としまして、小規模校に関しましては、子どもたちの良好な学習環境を確保し、学校運営に支障をきたすことのないよう、最優先課題と位置づけ、中長期的な視点に立ち、「学校統合

を基本方策」として、課題解消を図るとしました。

次に、大規模校に関しましては、「通学区域」の変更によって、課題解消を図るとしており、さらに、過密校に関しましては、「通学区域の変更や校舎の増築」によって課題解消を図るとしました。

(P5)

次に②学校統合についての「学校統合の取り組み」についてですが、今後は、答申において「できる限り早期」に実施することとされた、高陵小学校と中宮北小学校の統合方策に取り組んでいく。としました。

また、答申における、樟葉北小学校や招提北中学校など他の取り組み方策については、今後の児童生徒数の推移を注視するとともに、個々の課題への対応を検討する中で、「5年程度を目途として改めて示していく」としました。

(P6)

次に、「学校統合にあたっての留意事項」の「(a) 学校統合の進め方」についてですが、今後、具体的な適正化方策を取りまとめた「実施プラン」を作成し、統合の3年前までを基本に、「広報ひらかた」やホームページへ掲載するなど公表し、オープンな形で進めていくこととしています。この実施プランについては、統合の実施時期や、どちらの小学校敷地に統合校を置くのかなど、統合の具体的な方策を定めた計画となります。

次に、学校統合にあたっては、保護者、地域コミュニティ・学校・教育委員会等の代表者からなる（仮称）「統合協議会」を設置し、新しい学校を築く観点で統合に関する諸課題について、協議、検討を行うこととしています。ここで言う、統合に関する諸課題といえますのは、例えば、統合校の学校名や校歌、また、通学路の安全対策や両校の交流行事などであり、そういった諸課題について、協議検討を行うこととしています。

(P7)

次に、留意事項のうち「(b) 教育環境に充実について」ですが、まず、統合校につきましても、近年の教育内容・教育方法の多様化や社会状況の変化、安全・防犯対策や地域との連携などへの適切な対応を考慮した施設・設備の整備を図ることとしました。

さらに、学校統合にあたっては、環境の変化による児童生徒の心のケアに配慮し、教職員の適切な人事配置に努めます。さらに、統合後の新たな学校の円滑な運営や学習環境の充実について万全の対策を講じることとしました。

特に、配慮を要する児童生徒については、個のニーズに応じた支援に努めることといたします。

(P8)

次に、今後の進め方についてですが、学校統合に向けた保護者や地域への説明会をいたします。

次に、実施プラン及び（仮称）統合協議会の設置に向けた説明会を開催いたします。そして、（仮称）統合協議会設置に向け、一定のご理解がいただけた段階において、実施プラ

ンを策定し、(仮称) 統合協議会の設置をします。そして、その(仮称) 統合協議会において、統合に関する諸課題の協議検討を基本3年間行い、諸課題をクリアしたうえで学校統合となります。それでは、具体的に学校統合は「いつになるのか」ということですが、これは、あくまで案ではありますが、学校統合に向けた保護者や地域への説明会のあと、平成30年度から実施プラン及び(仮称) 統合協議会の設置に向けた説明会を行い、その後、(仮称) 統合協議会設置に向け、ご理解がいただけた段階において、実施プランの策定をします。実施プランが仮に来年度の平成30年度中に出来た場合、基本その後3年間(仮称) 統合協議会において、統合に関する諸課題の協議・検討を行うこととなりますので、平成34年4月に学校統合ということになります。この日程案は、あくまで、実施プランが来年度の平成30年度中に出来たとした場合ではありますが、教育委員会といたしましては、平成34年4月の学校統合を目指して取り組んでいきたいと考えております。

(質問1) 統合後の校舎の整備等、具体的なことは決まっているのか。

(回答1) 統合後は校舎を一新したいと考えています。

(補足1) 高陵小学校の校舎は来年8月で50年になり、説明会会場の音楽室の床なども痛んでいます。よって躯体を残す長寿命化改修をさせていただきます。現在、予算の担保はないが、さらに一歩進んで、全面改築をしたいという思いもある。

(質問2) (大藤校長) 答申にあるように、統合校は高陵小学校の敷地に置くのか。

(回答2) 教育委員会として、いただいた答申をもとに、高陵小学校に統合校を設置したいと考えています。

(質問3) 教育委員会が統合を進めるということは、学校規模が適正でないとの考えからと把握している。適正でないのなら、速やかに統合を進めるべき。また、「(仮称) 統合協議会設置後3年間をかけて・・・」の根拠を示すべき。

(回答3) できる限り早く統合を実現したいと考えています。ただし、統合協議会において諸課題を解決するために「3年を基本に」とお示ししています。

(質問4) 統合をするにあたり、先生(の配置)はどうなるのか。(両校で)一緒に学べるような機会を創るのか。

(回答4) 両校の先生方で統合までに、コミュニケーションを図ってほしいと考えています。また、統合前とできるだけ環境が変わらないよう、配慮もしていきます。

(質問5) 高陵小学校の児童は(校舎建て替えに伴う)工事期間中は、中宮北小学校に通学することになると思うが、関西外国語大学の建設に伴い、通学路が変わる。

児童が大きな道路（殿山百済寺道）を通ることは危険と感じている。下校時も見守り隊の方に立っていただけるのか。また、児童が関西外国語大学の学生とバッティングすることもあるので、配慮していただけるのか。

（回答5）今後も関西外国語大学との情報交換を進めていきます。また、教育委員会は通学路を実際に歩いて、調査もしています。今後も保護者様からご意見をいただき、見守り隊の強化についてお願いも含め、検討してまいります。

（質問6）高陵小学校と関西外国語大学の間にある坂道について、車は通行できないようになっているが、実際には車が通ることもある。危険なので、車が通れないようにすることはできないのか。

（回答6）いただいたご意見をもとに、道路管理者と協議をしていきます。今後は調査し、改善ができるかを図っていきます。

（補足6）当該道路は市道で、現在、指定車以外は通行禁止になっています。過去に坂の途中（現、関西外国語大学の土地）に駐車場があった関係で、警察に許可を得ている者だけが通行できていました。現在は駐車場がないため、確認をいたします。

（質問7）「統合協議会を設置する前に、両校区の承認を得てから」となっているが、承認を得るには、（賛成者の）1／2以上（が必要）とか、多数決をとるなど、方法は決まっているのか。

（回答7）方法論としては、各会の規約等に則って決めていただくことになると思います。その総括については、最終、教育委員会で判断をさせていただくことになるかと考えています。

（質問8）皆が一番気にされているところは「統合をするなら早くしましょう」ということである。また、（基本方針が示された後）時間がたっているので、「中宮北校区は統合に反対している」など、噂が噂を呼んでいる。また、（教育委員会は）「両校区の合意を得てから」とあいまいな表現しかできないとも思うが、（保護者として統合が）いつになるのかと、もやもやしている。（統合に向けて）ゴーサインが本当に出るのか。（教育委員会として）統合をする方向で話を進めているのなら、速やかにしてほしい。適正でない状態がより長く続くことは望ましくない。（教育委員会は）子どもたちのことを最優先に考えてほしい。（統合に対して関係者）全員が納得するとは考えづらい。例えば（統合をする）日を決めて、一気に取り組みを進めるなど、検討してほしい。

（回答8）昨年、審議会より答申をいただき、中宮北校区を対象にした説明会を実施しましたが、統合に否定的な意見、統合が心配な意見、なぜ児童数が多い学校が見

童数の少ない学校に行かなければならないのか等の意見が多数出ました。その中で中宮北コミュニティと PTA が中心になり、統合問題検討委員会を立ち上げ、5つの重点課題を示され、勉強会でその課題をクリアしていこうとしております。しかし（統合に対しては）まだ、理解を得られていません。12月2日に統合問題検討委員会と話し合いをいたしますが、教育委員会としては、平成30年度に（仮称）統合協議会を設置したいとの目標をもっており、PTA 会長の意向、コミュニティ会長の意向、統合問題検討委員会の意向、高陵校区の意向が合意に達したときに、（仮称）統合協議会を設置いたします。なお、（仮称）統合協議会を設置後、基本3年後に統合をする予定になっていますが、（課題が整理できれば）3年を待たずに統合を（実施したい）、との思いももっています。

（意見9）（田邊会長）今回の説明会の開催にあたり、教育委員会と様々な折衝をしてきた。統合に向けて自分（会長）なりに要望がある。教育委員会には校舎の全面改装をお願いしている。理由として、関西外国語大学の建設にあたり、大学から見えるプールの位置、法面の上にある体育館の位置等は適切ではない。枚方市の統合モデル校を創るにあたり、一から素晴らしい学校を創っていただきたいと考えている。今回の説明会を開催するにあたり、教育委員会に PTA という子どもに一番近い団体の思いを聴いてほしいと考え、この説明会を実施した。今後、PTA 総会を開き、PTA で統合に向けて動くとの流れを作りたい。最終的に地域がゴーサインを出せば、（仮称）統合協議会が出来上がる。今後も地域づくりのために、地域から意見を出してほしい。

（質問10）（田邊会長）小規模校の何がだめなのか、適正規模校の何がいいのか。

（回答10）小規模のメリットとして、（児童数が少ないため）全教職員がより児童理解ができるとされており、高陵小学校では校長先生をはじめ、適切に対応していただいている。しかし、法律により教員数が決まっており、児童に緊急のトラブルがあった場合、教員数がより多ければトラブルの対応が迅速にできる。また、教師側の立場の話になるが、教員は資質向上のため、研修に出かけることも多く、学校を空けることもある。ある学校では管理職が（研修に出席する教員の）手当て（代わり）をすることもある。また、高陵小学校の先生方は非常に力があり、良い指導をしていただいていると把握しているが、教師にも得意な面と不得意な面もある。同じ学年の先生方から気づきを得られる機会も必要である。教師の気づきがあれば、子どもたちの気づきを引き出すこともできる。平成32年度より新しい教育課程、新しい学習指導要領がスタートする。「どのように教えるか」から「子どもたちがどのように学ぶのか」と変わっていく。そのような授業をするにあたり、教員はより多くいたほうがよい。小規模校が絶対ダメ

とは言わないが、より子どもたちの多様な価値を引き出すためにはある程度の学級数、具体的に言えば、1学年2クラスから3クラス程度があれば、(互いに)より良い影響を与えることができると考える。

(意見 10) 1点目は理解できない。教師が足りなくてできないことがあるのなら、法律を変えたり、市で教員を採用したりすれば良い。教育委員会は学校の状態を(法に決められた基準だけでなく)学校単位で見極めをしてほしい。教育委員会は(児童にとって)良い教育環境を創ってほしい。

(補足 10) 教育委員会は「子どもが第一」と考えている。これからは保護者様が受けてきたような一斉授業から、子ども自身が考え、何人かの子ども同士で協議し、自分の考えがどうだったかを自ら判断する授業に変わっていく。子どもたち自身が義務教育の間にいろいろな考え方を知ることが大事である。また、子どもたち同士の議論を通じ、子どもたちは成長していく。小規模校、単学級もメリットはあり、高陵小学校では校長先生が全児童の顔を覚え、声をかけていただいている。一方、一定の集団の中で切磋琢磨していくことも必要である。人間でしかできないこと、思考力・判断力を高めるためには一定の集団が必要と考える。